

令和5年度 卒業式



SHOWA GAKUIN
SINCE 1940

SHOWA GAKUIN

昭和学院中学校・高等学校

昭和学院 広報 第45号 2024.3.19[火]発行

〒272-0823 千葉県市川市東菅野2-17-1

TEL 047-323-4171~5 FAX 047-326-5310

<https://www.showa-gkn.ed.jp/js/>

令和5年度第75回高等学校卒業証書授与式が、メインアリーナで3/5(火)に挙行された。卒業生300名と教職員に加え高校2年生、そして3年前の入学式にはご臨席いただけなかった保護者の方々にご参列いただくことができた。



▲総代の大谷水希さん

式では卒業証書の他に、学院賞・知事賞・私学協会賞・私学連合会賞が授与された。また、部活動で優秀な成績を収めた生徒が体育賞・文化賞を受賞し、この学年の生徒たちの3年間の努力の成果がうかがえた。山本理事長からは、生成AI、宇宙産業と急速なイノベーションが続くなかで、自らが歩む道を果敢に前進し、トップランナーとなって幸せで充実した人生を送ってほしいとの式辞があった。大井校長からは、できるだけ厳しい道を選び、自らの道を自らの力で切り開いてほしいという意味の「フロンティア・スピリット」と、84年間にわたる歴史と伝統を持つ昭和学院で学んだ「昭和プライド」が語られ、「自己実現を図るバイタリティーの根源が昭和プライドとなるであろう」という言葉が贈られた。来賓の根本隆道奨学会会長からは、「悔いのない3年間を送りましたか?」という問いかけがあり、「これからの人生は決して平坦ではないですが、確たる目標があれば、きっと人生は楽しいものになります」という温かい激励の祝辞を頂戴した。在校生代表の伊藤優来さんからの送辞を受け、太田愛音衣さんの答辞では、心の成長を感じることができた桜和祭での取り組み、平和への慈しみが増した広島・関西方面への修学旅行、仲間と団結することができたスポーツ大会などの思い出が語られた。そして、全国レベルで戦う

▲答辞を述べる太田愛音衣さん



▲最後のホームルーム

クラスメイトと共有した熱い想いを振り返り、進路決定までの経験を通じて大きく成長した様子を「枝葉を広げた大木という土台」と表現し、「大きな花を咲かせられるよう悔いのない努力をしていきたい」という決意が語られた。卒業生が退場する際は、各クラスから思い思いに感謝の言葉が先生方に投げかけられ、参列者から多くの拍手で見送られた。学年の先生方が退場する時に保護者席から「先生ありがとう」という声かけられ、昭和学院での3年間で充実した日々であったことがうかがえた。

式が終了した後、卒業生は自教室でクラス担任から一人ひとり卒業証書を授与され、保護者の方々からの卒業記念品も贈呈された。午後は「卒業を祝う会」が行われた。近隣の店舗から提供された様々な料理に舌鼓を打ちながら、ダンス部・野球部によるダンス、抽選会などで楽しいひとときを過ごした。この会は今年度初めて保護者の方々が卒業生のために企画してくださった。前例がない会であったが、卒業生、保護者、教職員が一堂に会し、3年間で振り返り語り合うことができた、思い出深い会となった。

当該学年は、「一步踏み出し、道を拓こう」を学年目標とし、失敗を恐れず、様々なことに挑戦する生徒の育成を目指してきた。コロナ禍で活動を制限されていた中でも、工夫を凝らしながらピンチをチャンスに変えて挑戦を続けてきた卒業生たちを称賛したい。

クラスメイトと共有した熱い想いを振り返り、進路決定までの経験を通じて大きく成長した様子を「枝葉を広げた大木という土台」と表現し、「大きな花を咲かせられるよう悔いのない努力をしていきたい」という決意が語られた。卒業生が退場する際は、各クラスから思い思いに感謝の言葉が先生方に投げかけられ、参列者から多くの拍手で見送られた。学年の先生方が退場する時に保護者席から「先生ありがとう」という声かけられ、昭和学院での3年間で充実した日々であったことがうかがえた。

式が終了した後、卒業生は自教室でクラス担任から一人ひとり卒業証書を授与され、保護者の方々からの卒業記念品も贈呈された。午後は「卒業を祝う会」が行われた。近隣の店舗から提供された様々な料理に舌鼓を打ちながら、ダンス部・野球部によるダンス、抽選会などで楽しいひとときを過ごした。この会は今年度初めて保護者の方々が卒業生のために企画してくださった。前例がない会であったが、卒業生、保護者、教職員が一堂に会し、3年間で振り返り語り合うことができた、思い出深い会となった。

当該学年は、「一步踏み出し、道を拓こう」を学年目標とし、失敗を恐れず、様々なことに挑戦する生徒の育成を目指してきた。コロナ禍で活動を制限されていた中でも、工夫を凝らしながらピンチをチャンスに変えて挑戦を続けてきた卒業生たちを称賛したい。

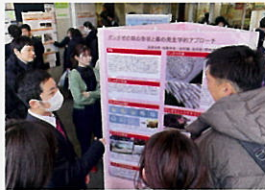


▲仲間と卒業を祝して

探究フェスティバル

1/27(土)に探究フェスティバルが開催された。総合的な学習の時間(中学)および総合的な探究の時間(高校)に1年をかけて課題を設定し、情報を集め、整理・分析し、それをまとめるという探究のサイクルを回してきた生徒たちが、それぞれの学びを様々な形で発表した。当日は保護者の方にも多くご来場いただき、生徒たちも堂々と発表や説明をしている様子があった。以下、各学年・コースからの報告。

サイエンスアカデミー (SA) コース SAコースには、8領域の研究分野に分かれて本物の学術研究に取り組む研究活動という授業がある。今回の探究フェスティバルでは、基礎となる知識習得に励んだり、最新の論文を読んだりといった、まずは研究のスタートラインに立つための過程を紹介した。本物の学会さながらのポスター作成と、来場者との対話しながら専門の内容を伝えるポスタープレゼン形式での発表は、自分自身のこれまでの活動を見つめなおす貴重な経験になった。自分が研究として実践することを見据え、新規性のあるテーマを模索することの大変さと楽しさを味わえた。来場された方々から厳しい指摘を受けたり、次にやるべき活動のアイデアをもらったり、対話によって研究がさらに推進されることを実感できた。



中1 「他者の Well-Being を探そう」というテーマで、友達や家族の悩み事から社会的課題に至るまで、周囲の人々が直面している問題を発見し、それらを解決するためのアイデアを模索した。インタビューを実施したチームもあり、異なる視点からのフィードバックを活かしてアイデアをまとめた。探究フェスティバルでは、プレゼンテーションやポスターセッションなど、様々な形でそれを表現した。参加者と直接対話することで、自分たちの好きなことを伝える楽しさを知ることができた。



中2 クエストエデュケーション「インターン」というプログラムを通して、企業のVisionをもとに新商品や新サービスを提案した。生徒たちは、7つの企業(イオンリテール、ニフコ、メニコン、パナソニックエナジー、富士通、富士製薬工業、吉野家)に分かれて活動し、多様な人と関わったり、地域や社会について考えたりする経験を通じて、コミュニケーション能力や課題発見・解決力を養うことができた。



中3 オーストラリア語学研修に向けて、1学期「日本を知る」、2学期「オーストラリアを知る」をテーマに学習を行った。探究フェスティバルでは、学んだことをオーストラリアで伝えられるように英語でのプレゼンテーションに挑戦した。個人単位の活動で、内容の工夫や英語の作成、相手への伝わりやすさなどに苦勞する様子もあったが、それがオー

ストラリア現地ではもちろん、今後の生活の中で活かされることを期待している。



高1 桜美林大学との連携プログラム「ディスカバ!」に取り組んだ。様々な学問分野の研究者や社会の第一線で活躍する専門家から、「世界を驚かせるビジネスアイデアを考えよう」などの9つの探究テーマが提示され、生徒たちはその中から1つのテーマに取り組んだ。探究フェスティバルでは、調査・仮説・検証を通して考えた提案や実践をまとめ、ポスターセッションを行った。生徒同士だけでなく多くの大人の方に自分の言葉で説明し、リアクションをもらうことで、多くの刺激と学びを得られたようだ。挑戦してくれた生徒諸君に敬意を表したい!



高2 自身の興味関心に基づいたテーマを設定し、探究活動を実施してきた。1学期は問いや仮説の立て方、検証方法など探究活動の基礎となるスキルを学び、2学期はそれらを活かして自分自身の「好き」を掘り下げた。テーマの設定に苦勞している姿が多く見られたが、探究フェスティバル当日は各会場で個性豊かなプレゼンテーションが行われた。「疑問を持つ」「自分で考える」「学んだことをまとめる」「相手に伝える」など、今回の探究活動で経験したこれらのことが、今後の高校生活の良き糧となることを期待している。



高3 進路に基づいた生徒たちの興味・関心をもとに8分野に分かれ、自らテーマを設定し活動を行ってきた。そこでは、社会や地域が抱える問題点を把握するとともに、SDGsの視点も踏まえた解決策の提案を目指してきた。1年間の集大成である探究フェスティバルでは、さらに掘り下げて発展させた内容を発表した生徒や、似たテーマで活動してきた者同士で意見交換を行って新たな視点を組み込んでグループ発表をした生徒たちもいた。3年間の探究活動を通して、既存の方法にとらわれずに新たなアイデアを生み出す創造力や問題解決力、様々な人々と関わる際に必要なコミュニケーション力などを学ぶことが出来た。



SG アカデミー (中学校)



▲花島百香さん

2/7(水)中学生を対象に、女子バスケットボールチーム「ENEOSサンフラワーズ」で活躍する本校卒業生の花島百香さんによるSGアカデミーが行われた。今回は「夢の実現」をテーマに、幼いころから現在に至るまで貫かれたバスケットボールに対する思いや目標についての講演であった。中学生にもわかりやすい言葉で語られ、夢や目標に対して自分のこととして考えを深めることができたようだ。花島さんから「一緒に頑張りましょう」と呼びかけられると、先輩の話に聞き入っていた生徒たちから自然と拍手が起きたり、「何でも聞いてください」という言葉に生徒の緊張もほぐれたのか多くの質問が出たりと、講演者と聴衆の心が通い合う温かい雰囲気となった。「目標は大きく」「常にチャンスを掴む準備をする」「覚悟を持つ」

「『好き』を大切に」という4つの言葉に刺激を受けた生徒が多く、「まずは目標を立てることから始めてみようと思う」「苦しくてもあきらめずに続けていこうと思った」などの感想が多く寄せられた。社会で活躍する卒業生と在校生がつながりを維持することができることは、SGアカデミーの特徴の1つである。

今回の運営に、中学校委員会中央委員の生徒が携わった。司会進行や座席案内、質問受付、ワークシート・振り返りフォームの作成を行うことで、各自が積極的に役割を果たし、委員の成長も見ることができた。



▲盛り上がった質問コーナー

中3 オーストラリア語学研修



▲ドリームワールドにて

中学3年生105名は2/16(金)から24(土)までの9日間の日程でオーストラリア語学研修を実施した。1年生より準備をし、2年生のイングリッシュキャンプを経験して3年間の集大成として待ちに待った語学研修であった。特に3年生になってからは、学校の事などを英語で伝える具体的な準備をしてきた。

出発日17:00成田空港に集合し、保護者の方々とお別れをして、少しの緊張感と大きな期待に胸膨らませて19:30カンタス航空でブリスベン国際空港に向かった。直行便だったので所要時間約9時間



▲BBCにて

で気温約10℃の冬の世界から35℃の真逆の夏の世界に移動した。さすがに現地は暑く、生徒たちはカーディガンを脱ぎ夏の制服になっていた。入国検査官から英語で質問をされ緊張しながらオーストラリアに入国した。これより先は学校ごとに分かれ、バスでSaint

Stephen's College, Brisbane Christian College, Ipswich Grammar School, West Moreton Anglican Collegeの4つの学校に向かった。各学校で待っていたホストファミリーは温かいハグで迎えてくれた。

月曜日から、各学校の生徒たちと数学、理科、英語、美術など通常の授業に英語で参加し、生徒たちは「理解できました」と自信を持って答えていた。外国語の授業で日本語がある学校もあり、「日本語を教えた」と楽しそうに答える生徒もいた。2/21(水)には、ドリームワールドというテーマパークに全生徒が集まった。3日ぶりに全員に会い、生徒たちはとても楽しそうにアトラクションに乗っていた。オーストラリアの動物たちがいるエリアではカンガルーやコアラを見ることができた。

最後の授業では、学校生活をサポートしてくれていた現地校の生徒や先生と名残惜しそうにハグをしている姿があり、現地学校での体験が生徒たちにとって良い機会であったことを物語っていた。また、ホストファミリーとのお別れでは、最後にいっぱいハグとともに「また来てね」と言われた生徒たちの目には涙も見られた。

到着時には気温差で体調を崩し、熱を出した生徒が数名いたが、2/24(土)ブリスベン国際空港に全員が元気に集合することができた。語学研修初日は不安そうな表情であった生徒たちも、帰国の時には

自信に満ち充実した表情になっていた。このオーストラリア語学研修の経験が「一生の宝物」になったことは間違いない。オーストラリアでの経験を生かして国際的な感覚をもった人に成長してもらいたい。



▲SSCにて

Winter English Program

中学1・2年生IAコース及び他コースの希望者を対象に12/18(月)・19(火)の計2日間、ウィンターイングリッシュプログラムを実施した。英語を使用して学ぶことを目的としたプログラムで、



▲オリエンテーションの様子

ディベートやディスカッションを中心にレッスンを行った。初めての体験に最初は戸惑う生徒もいたが、2日間のプログラムを通じて自信をつけ、積極的に参加するようになった様子が見られた。特に、最終日には、各グループ内でプレゼンテーションを行い、個々の学びを共有する場面がみられた。参加した生徒たちは、英語をツールとして使用することで、言語能力だけでなく、批判的思考やプレゼンテーションスキルなど、21世紀に必要とされる多様な能力を育成する機会を得ることができた。また、講師の出身国に関するトピックを取り上げることで、生徒たちは異文化についての理解を深めることができたようだ。イングリッシュプログラムと銘打っているが、「自国についてもっと知る必要がある」「思考するのが苦手だと気付いた」など、生徒は英語以外の課題も発見していた。教室での学習だけでなく、実生活で英語を使う機会を見つけ、学んだことを実践に移していくことが重要である。このプログラムが、生徒たちの学習への意欲を高め、将来に向けた大きな一歩となることを願っている。



▲活動の様子

中1・2 ビブリオバトル



▲チャンプ 洲上太晴さん

ゲームである。今回は、中学1・2年生の各クラスのチャンプである生徒10名が、お気に入りの本を紹介した。

クラスチャンプ生徒と紹介本は次の通りである。1-1 奥山美穂『残像に口紅を』、1-2 加瀬史昂『余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話』、1-3 丸山日菜『失敗図鑑』、1-4 四宮千愛『自分のまわりに「ふしぎな奇跡」がい



▲準チャンプ 吉田零さん

っぱい起こる本』、1-5 宇田川心音『かがみの孤城』、2-1 吉田零『小説 翔んで埼玉』、2-2 森小春『きこえる』、2-3 小山夏海『グッバイ宣言』、2-4 洲上太晴『また、同じ夢を見ていた』、2-5 松本真日菜『手紙屋』である。今回のチャンプは洲上太晴さん、準チャンプは吉田零さんであった。各クラスのチャンプが壇上で話をする姿は、とても生き生きとしていた。昨年同様、大会の準備と運営は、



▲クラスチャンプのみなさん

実行委員の生徒が主体となっておこない、生徒たちのリーダーシップ、コミュニケーション能力の高さには感嘆させられた。今後も学年の垣根を越えて生徒たちが協力し、活躍する姿が見られることに期待したい。

活躍する生徒たち

令和5年度の大会で優秀な成績を収め、1・2学期に掲載できなかった方々の紹介。

新体操／新体操部 [高校]



第76回 全日本新体操選手権大会
団体総合 **優勝**
2023.10.27[金]～29[日]
於／武蔵野の森総合スポーツプラザ
太田 詩月[高3]・竹高 朱莉[高3]
渋谷 美緒[高2]・東 愛梨[高2]
佐波 結来[高1]

レーシングカート／人見 翔馬 [高1]

WAKOsスーパーカップ **優勝**
2023.6.11[日]
於／筑波コース2000
スーパーカート筑波シリーズ **優勝**
2023.7.30[日]
於／筑波コース2000



▼WAKOsスーパーカップ

ダンスコンテスト・オープンチーム／人見 翔馬 [高1]

JADAカップオープン部門 **準優勝**
2024.1.6[土] 於／小岩アーバンプラザホール

車いすテニス男子 U-18 / 橘 龍平 [高1]



岐阜オープン ITF junior series **優勝**
2023.8.8[火]～10[木]
於／岐阜メモリアルセンター

BELEK OPEN ITF futures series
準優勝 2023.12.1[金]～4[月]
於／Megasaray tennis academy
(トルコ・アンタルヤ)

吹奏楽／吹奏楽部 [高校]

第29回 日本管楽合奏コンテスト全国大会
高校生A部門 **最優秀賞 審査員特別賞**
2023.11.5[日] 於／文京シビックホール 大ホール
第25回 全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜
連盟理事長賞・ヤマハ賞
2023.11.11[土] 於／横浜みなとみらいホール 大ホール



書道／武田 莉知 [高1]
第21回 和洋女子大学競書大会
【半紙の部】 **審査員奨励賞**
2023.11.19[日] 於／和洋学園講堂

書道／山田 采奈 [高2]

大東文化大学主催 第64回全国書道展
【半紙の部】 **全国書道高等学校協議会賞**
2023.11.26[日] 於／大東文化大学 板橋校舎



優勝 記念品贈呈式

今年度大活躍した女子ハンドボール部(高校)・新体操部(高校)・伊東開耶さん(高校水泳部)、山本圭悟さん(高校 カヌー)に記念品が贈られました。



2024.2.10[土] 於／メインアリーナ

マイゼミ

高校2・3年マイゼミ「書法研究Ⅰ・Ⅱ」「制作研究」「造形研究」「服飾研究」「工業デザイン」で取り組んだ内容を発表しました。



▲書法研究



▲工業デザイン



▲服飾研究



▲制作研究・造形研究

書き初め展

会期：1月27日[土]～2月9日[金]



中学校
浪岡 春希 二年



高等学校
山田 采奈 二年

校長賞



▲書き初め展

新生徒会



昨年12/16(土)に生徒会選挙が行われ、新たに9名の生徒会役員が任命された。旧生徒会役員が掲げた《より良い学校生活を送るための活動》を受け継ぎ、2大行事であるスポーツ大会や桜和祭をより楽しくするための活動を1月よりスタートさせている。行事に限らず、日々の学校生活を送る上で、高等学校委員や中学校中央委員会とも連携を図っていき、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるための活動を行っていく。

新生徒会役員は例年以上にやる気に満ち溢れ、教師と生徒の懸け橋となり、楽しく学び、過ごしやすい学校づくりをするために活躍してくれるだろう。

会長	伊藤 優来 (2-C)
副会長	今井 百花 (2-H)
副会長	吉永 拓道 (1-K)
書記	鈴木 悠 (2-J)
書記	大野 光貴 (1-K)
会計	宇出韻 ジャワード (2-E)
会計	橘 龍平 (1-N)
会計監査	小野 啓熙 (2-C)
会計監査	鈴木 優衣奈 (1-K)

春の全国大会 出場部紹介

高校 女子ハンドボール部

佐藤 奏吉先生



第47回
全国高等学校
ハンドボール選抜大会

三重県津市
サオリーナ

3.23[土]~29[金]

高校 男子ハンドボール部

池畑 大先生



第47回
全国高等学校
ハンドボール選抜大会

岐阜県
メモリアルセンター

3.23[土]~29[金]

高校 新体操部

塩屋 恵美子先生

第39回 全国高等学校新体操選抜大会
彩の国 くまがやドーム 3.18[月]~20[水]



高校 体操競技部

中島 恵美子先生

第40回 全国高等学校
体操競技選抜大会



彩の国
くまがやドーム

西田 采永[高2] 3.21[木]~22[金]

高校 自転車競技同好会

大坪 正典先生

第45回 全国高等学校選抜
自転車競技大会
北九州 メディアドーム及びオートボリス



3.25[月]
~29[金]

高校 女子ソフトテニス部

高橋 章典先生

第49回 全日本高等学校選抜ソフトテニス大会
愛知県名古屋市 日本ガイシホール 3.28[木]~30[土]



中高 吹奏楽部

牧野 宏哲先生

第36回 全日本高等学校選抜
吹奏楽大会
静岡県浜松市 アクトシティ浜松 大ホール
3.23[土]~24[日]

第28回 全日本中学生・高校生
管打楽器ソロコンテスト

東京都調布市
桐朋学園大学 桐朋学園宗次ホール
3.27[水]

中学 空手同好会

飯野 誠也先生

未来くん杯
第18回 全国中学生空手道選抜大会



亀岡運動公園体育館
(京都)

3.30[土]~31[日]

斉藤 那奈[中1]

奨学会だより

今年度の活動を振り返って

本年度も昭和学院中学高等学校奨学会へのご支援ご協力ありがとうございました。昨年5月に新型コロナウイルスの感染症レベルが2類相当から5類へ移行したこともあり、懇親会、部活動応援、桜和祭、私学振興大会、校外指導、文化講演会、美化作業と本年度は年間を通じてほぼ制限なく活動することができました。これまで山本理事長、大井校長、教職員の方々、奨学会理事・会員の皆様にご協

力いただくことにより、私自身は昭和学院中高奨学会の常任理事として6年間、さらに最後の2年間は会長職を務めることができました。子どもの高校卒業とともに、奨学会から離れることとなりますが、昭和学院中学校・高等学校並びに奨学会の益々の発展をご祈念申しあげ、退任の挨拶とさせていただきます。



会長 根本 隆道

常任理事会



朝の挨拶運動の様子

第3学期の常任理事会が2/3(土)に開催されました。本年度は桜和祭、文化講演会、美化作業、挨拶運動など通常の活動に加え、桜和祭でのバザーの復活や制服リサイクルなど新たな取り組みもあり、活動の輪が大きく広がる一年でした。来年度は対面での総会開催や多くの保護者の方に参加いただける活動にしていこうと、活発な討議がなされました。今後も奨学会をさらに充実したものにする事を確認し閉会しました。



卒業学年の理事の皆様

各部より

総務部 コロナ禍で中止していた役員懇親会を開催。桜和祭では「ミサガ作り」と「くるくるシャボン玉作り」を実施いたしました。皆様のご協力のもと大変有意義な総務部の活動が出来ました。

学習施設部 校内の教育環境を整え、学習面に関することや校舎内の緑化・トイレの美化に努めています。今年度は、施設見学会・美化作業・制服リサイクルへの寄贈等、ご協力に感謝申し上げます。

文化教養部 文化講演会は大空幸星さんと金子道子さんとともに「いのちの大切さ」をテーマに議論。質問も多く出ました。関連行事として、桜和祭で田原総一郎さんのミニ講演も催しました。

厚生補導部 本年度は7月と10月に朝の挨拶運動、桜和祭の受付業務、文化講演会のお手伝いに多くの保護者の方々にご協力頂きありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。

行事推進部 本年度の活動は主にインターハイ壮行式の参加、桜和祭の協力、各部活動の応援でした。活動にご協力頂いた皆様ありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。

母姉部 今年度は4年ぶりの桜和祭のバザー開催となり、沢山の来校で賑わいました。10月には私学振興大会へ出席しました。1年間、母姉部の活動にご協力頂きありがとうございました。

主な合格状況

[3月9日現在]

四年制大学

(国立大学)

九州大	1	順天堂大	12	城西国際大	2
東京外国語大	1	東京電機大	1	松蔭大	1
千葉大	1	日本大	17	女子栄養大	1
東京農工大	1	東洋大	16	聖徳大	3
東京学芸大	1	駒澤大	8	大正大	3
鹿児島大	1	専修大	10	宝塚大	1
千葉県立保健医療大	1	東海大	10	拓殖大	5
室蘭工業大	1	亜細亜大	3	千葉科学大	1
周南公立大	1	帝京大	8	千葉工業大	9
		国士舘大	6	千葉商科大	6
		工学院大	1	中央学院大	3
		東京都市大	3	中京大	1
		武蔵野大	10	帝京平成大	5
		神田外語大	7	デジタルハリウッド大	1
		文教大	4	東京医療保健大	1
		大妻女子大	3	東京家政大	2
		共立女子大	4	東京経済大	7
		駒沢女子大	1	東京工科大	7
		実践女子大	1	東京工芸大	3
		昭和女子大	5	東京成徳大	1
		白百合女子大	1	東洋学園大	1
		跡見学園女子大	1	二松学舎大	3
		江戸川大	2	日本経済大	1
		SBC東京医療大	3	日本獣生命科学大	1
		桜美林大	5	日本女子体育大	2
		開智国際大	4	日本体育大	1
		神奈川大	3	文京学院大	3
		亀田医療大	1	武蔵野美術大	1
		関東学院大	1	明海大	7
		近畿大	2	明星大	3
		敬愛大	1	目白大	10
		国際医療福祉大	2	横浜薬科大	1
		国際武道大	1	立正大	1
		産業能率大	7	流通経済大	1
		秀明大	1	麗澤大	16
		淑徳大	9	和洋女子大	8
		城西大	2		

(私立大学)

早稲田大	5	武蔵野大	10	帝京平成大	5
慶應義塾大	1	神田外語大	7	デジタルハリウッド大	1
上智大	4	文教大	4	東京医療保健大	1
東京理科大	1	大妻女子大	3	東京家政大	2
国際基督教大	2	共立女子大	4	東京経済大	7
明治大	8	駒沢女子大	1	東京工科大	7
青山学院大	6	実践女子大	1	東京工芸大	3
立教大	9	昭和女子大	5	東京成徳大	1
中央大	8	白百合女子大	1	東洋学園大	1
法政大	12	跡見学園女子大	1	二松学舎大	3
学習院大	2	江戸川大	2	日本経済大	1
関西大	1	SBC東京医療大	3	日本獣生命科学大	1
立命館アジア太平洋大	3	桜美林大	5	日本女子体育大	2
國學院大	5	開智国際大	4	日本体育大	1
明治学院大	4	神奈川大	3	文京学院大	3
成蹊大	5	亀田医療大	1	武蔵野美術大	1
成城大	5	関東学院大	1	明海大	7
武蔵大	3	近畿大	2	明星大	3
獨協大	9	敬愛大	1	目白大	10
学習院女子大	3	国際医療福祉大	2	横浜薬科大	1
日本赤十字看護大	1	国際武道大	1	立正大	1
東京農業大	15	産業能率大	7	流通経済大	1
東邦大	10	秀明大	1	麗澤大	16
北里大	1	淑徳大	9	和洋女子大	8
杏林大	5	城西大	2		

海外大学

オークランド大	1
オックスナード大	1
TAFEクイーンズランド大	1

専門職大学

情報経営イノベーション専門職大	4
東京情報デザイン専門職大	1

短期大学

昭和学院短大	2	東京成徳短大	1
戸板女子短大	1	日本歯科大東京短大	2

専門学校

東京医学技術専門学校 3 他 24

就職・その他

株式会社ユーニック 1

延合格数

四年制大学	436名	海外大学	3名
専門職大学・専門職短大	5名	短期大学	6名
大学校・専門学校	27名	就職(内定者)	1名

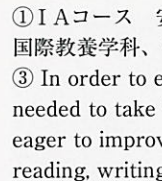
合格者の横顔

みなさんおめでとうございます。質問は次の①～⑤です。

- ①コース・氏名 ②現在までの合格校 ③努力したこと
④平均学習時間(平日・休日) ⑤後輩へのアドバイス



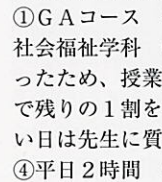
①TAコース 北濱 遙人 ②慶應義塾大学商学部商学科、東京理科大学経営学部経営学科、明治大学政治経済学部経済学科・国際日本学部国際日本学科、中央大学法学部国際企業関係法学科・文学部人文社会科学部・国際情報学部国際情報学科、学習院大学国際社会学部国際社会科学部、東洋大学社会学部社会学部 ③学習の習慣づけを1・2年生から意識し、ウサギよりかはカメで継続的に勉強した。④平日:2~3時間 休日:7~8時間(授業・予備校除く)⑤ただ暗記したり記憶したりするだけではなく「なぜ?」を「自分で」考えてみると、さらに学びが深まると思います。できるだけ平常心で、少しずついいので、ただ止まることなく。みなさんの健闘を祈っています。



①IAコース 安西 年花 ②上智大学国際教養学部国際教養学科、青山学院大学文学部英米文学科 ③In order to enter my first-choice university I needed to take TOEFL and IELTS tests, so I was eager to improve the four language skills: listening, reading, writing and speaking. Especially, I focused on writing. Learning various topics by watching the news and reading newspapers were the greatest materials to cultivate ideas to write essays. ④平日4~5時間 休日10時間以上 ⑤Everyone faces obstacles, but what is important is how hard you try to overcome them. In my case, figuring out my weak points and concentrating on them was helpful. So you should find the best way to learn that fits you and never give up!



①AAコース 森本 晏衣 ②東京学芸大学教育学部教育支援課程E類カウンセリングコース ③推薦入試と一般入試の対策の両立です。体力も時間も限られているため隙間時間を大切にしていました。電車の中では必ず単語帳を見たり、助動詞活用表を見たりしていました。④平日6時間 休日11時間 ⑤志望校を早めに決めることは、戦略を立てる上で本当に大切です。周りの雰囲気にもまみれず、自分の夢に向かって努力を積み重ねていけばきっと実現できます。本気で頑張ったことは自信につながります。応援しています!



①GAコース 牧 拓実 ②明治学院大学社会学部社会福祉学科 ③週6日の部活動との両立が必要だったため、授業で9割ほど理解をしてテスト前学習で残りの1割を補えるようにしていた。部活動のない日は先生に質問したり、友人と一緒に学習した。④平日2時間 休日5時間 ⑤指定校推薦を考えている方は、日々の授業がとても大切になります。その積み重ねが定期テストに繋がり評定を上げる要因にもなります。評定が上がれば選択肢を増やすことができるので志望校がまだ定まっていな方は、一日一日を大切に過ごしてください。

進路指導を振り返って

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。青春期の多くがコロナ禍にあたってしまった困難の多い日々を3年間送られたと思います。しかし、皆さんはまさに「英華発外」、素晴らしい資質を



進路指導部部长
松田ひとみ教諭

発揮して、困難に打ち克ってきました。その奮闘はやがて実を結びます。これからもご活躍されることを期待しています。

さて、高校1年生、2年生の皆さん、成功の秘訣はまさにスタートダッシュにあります。卒業学年の先生方にアンケートをとったところ、「早くから計画的に準備をしていた」、「主体性があり、自分から積極的に動いていた」というのが、先輩方の良いところだそうです。先輩方

の良いところを積極的に取り入れていきましょう。

卒業生の進路の結果を見ると、学校推薦型選抜や総合型選抜などの年内入試で進学した割合が約5割、一般選抜も含め多くの卒業生が四年制大学に進学を決めています。他にも短期大学、専門職大学、専門学校、就職など様々な道に進まれています。納得のいく結果に至るには、早期出発と計画性、そして情報収集が大切です。

予備校の分析では、今年度の大学入試もこの数年と傾向は同じです。「定員増により合格率が上昇」、「実学系や情報系が人気」となっています。ただし、コロナ禍の規制の緩和により、「学部系統で国際系の人気回復」、「極端な地元志向の減少」などの傾向も見られます。どの入試方式でも早い準備が大切です。何をしたら良いかわからないという人はまずは先生に相談してみましょう。